

みんなで学ぼう アレルギー

12月13日(月)本校では、4・5・6年生児童を対象に、心と体の健康講演会を実施しました。講師には、津山中央病院小児科部長の梶 俊策 医師をお迎えし、「みんなで学ぼうアレルギー」と題したお話を聞きました。

この講演会は、本校の教育目標に掲げる「健やかな体づくり」の一貫として、岡山県の「平成22年度子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業における『地域専門医等派遣事業』」を活用したものです。



アレルギーは三人に一人は持っている病気で、インフルエンザの予防接種とアレルギーの起こる仕組みが同じ(=免疫・・・「疫」(病気)を「免」(のがれる))であると聞いて、子どもたちはびっくりした様子でした。

「今日は予防接種の話をするんじゃないん??」
「あ～っ、そうだったんかぁ!」



アレルギーの原因(アレルゲン)は人それぞれで、その症状が起きる場所も様々であることをお聞きしました。また、それを検査する方法もあるが、どんな時・何をした時・何を食べた時に自分の体にアレルギーが起きるかということをよく知って、アレルゲンを体に入れないように気をつけることが大切で、それが治療にもつながるというお話でした。

「ほこりやカビもアレルゲンになるんじゃないな。」
「食事や掃除は家族にも協力してもらわんとできんなぁ。」



アレルギーは大人になるにつれ、70～80%の人が治るというお話を聞き、安心した子どもも多かったのではないのでしょうか?

最後に、聴診器を使って心音を聞かせていただきました。

「どう?ドクドクって聞こえる?」
「うん、聞こえた!!」

梶先生、ありがとうございました!